

平成31年度 武雄市立山内西小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子	「地域と共にある学校」の推進。 官民一体型学校「武雄花まる学園」「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」等の取り組みを通して、風通しのよい学校の風土をつくる。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 知的な学校・・・知的好奇心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	協働的に学び合う教職員集団づくり	・全職員が「授業づくりのステップ1・2・3」の自己評価において、「ステップ3」に達する。 ・互いの指導方法や指導技術を共有化できる体制を構築し、学級経営及び授業力の向上を図る。	・「ステップ1・2・3」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・「学力向上・研究推進委員会」を定期的開催し、研究部と推進委員との連携を図り、組織的に研修を進める。 ・全職員が仮説に基づく研究授業を行い、事前(模擬授業研)、事後(授業研究会)の研究の充実を図る。 ・全職員で指導方法や指導技術について学び合う「先生やる気タイム」を月1回行い、協働意識を高める。
教育活動	●学力の向上	習得した知識・技能を生活や学習で活用する力の向上	・全ての学年において、単元テストの正答率が80%を上回る。 ・県学習状況調査12月調査の全教科で、学力向上対策評価シートの本校到達目標を達成する(4年生は県平均以上)。	・学習状況調査やCRT、単元テストの結果を分析、考察し、児童の実態に合った指導方法、指導形態を考える研修の場を設定し、共通理解のもと指導を行う。 ・週3回朝の時間に「はなまるタイム」を行い、学習意欲の向上を図る。 ・全校で統一した自主学習に取り組み、参考になるノートを掲示し、児童の意欲を喚起する。 ・「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。 ・「学力向上だより」を定期的に保護者に配布する。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標をもち、それに向かって努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進	・児童アンケートで、授業内容が「わかった」「できた」と回答する児童を80%以上にする。 ・自分の目標に向けて頑張りたいとする児童を80%以上にする。	・授業の振り返りを毎時間実施する。 ・全ての教科や学校行事を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。
教育活動	○プログラミング教育の推進	プログラミング的思考の育成	・自ら課題を立てて学習に取り組むことができたことと回答する児童を80%以上にする。 ・振り返りを次の学習に生かすことができたことと回答する児童を80%以上にする。	・ポートフォリオを作成し、見直しをもって学習に取り組めるようにする。 ・校内研において授業研究会を行い、自ら課題を立てることのできるような学習指導の在り方について共通理解を図る。 ・授業の振り返りを毎時間実施させる。 ・毎時間の振り返りが一目で見渡せるようなポートフォリオ形式を開発する。

② 居心地のいい学校・・・自己肯定感の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	一人一人がよりよい生活を目指す指導の工夫	・生活振り返り週間(西つ子よい子のくらしカード)の自己評価で、「できている」と回答する児童を90%以上にする。 ・児童一人一人が落ち着いて生活し、「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする。	・低学年は、毎日振り返りを行い、保護者と協力して言葉かけを行う。また、中・高学年は「生活振り返り週間」に自己評価を行い、意識付けを行う。さらに、学級だよりなどで保護者に結果を知らせ、啓発する。 ・「ノーテレビ、ノーゲームデー」と、掃除前の立腰を委員会活動の一環として、児童が呼びかける形で取り組ませる。 ・職員連絡会で気になる児童についての情報の共有をする。情報の共有からケース会議につなげたり、SCや関係機関等へつなげたりする。 ・要支援児童に配慮した支援方法について職員研修を実施するとともに、学習指導や教材を工夫する。 ・「ふれあいタイム」の時間、運動会、青空教室等で、異学年交流の機会を設ける。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめを見逃さない環境の構築	・「やまうち合言葉」の「優しいことばを周りの人」を意識して行動できる児童(自己評価で)を90%以上にする。	・共通認識のもと、教師も「さん、くん」をつけて名前を呼ぶ。 ・「教育相談」「いじめアンケート」「先生あのおね」を実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・毎週の職員連絡会で「気になる児童」の情報交換をし共通理解を図る。 ・「平和を考える週間」「人権週間」を設け、全クラスで人権意識の育成を目指した取り組みを行う。
教育活動	○立腰教育の推進	立腰三原則の徹底	・立腰がきちんとできる児童(自己評価で)を90%以上にする。 ・気持ちのよい返事・あいさつ・言葉遣い・話を聞く姿勢・はきもの揃えを意識して行動できる児童(自己評価で)を85%以上にする。	・朝読書から姿勢を意識させ、放送に合わせて指導する。 ・授業前後は立腰をし、学ぶ姿勢を整えさせる。 ・昼休み終了後、掃除の準備ができた児童は立腰し、1分前には全児童が立腰の姿勢で開始を待てるように指導を行う。 ・「生活振り返り」を年2回集計し、その結果を踏まえた指導を行う。 ・環境委員会がトイレのスリッパ並べ、掃除道具の後片付けをチェックし、放送で称賛する。 ・挨拶運動を実施したり、全校朝会や学校便りで称賛したりして、意欲付けを行う。 ・履物揃えが習慣化できるように指導を行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務・教育活動の効率化	・全教職員(管理職を除く)の月平均の超過勤務時間を45時間以下にする。	・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、18:00までに施錠する。 ・毎月、職員に超過勤務時間を個別に伝え、超過勤務縮減への意識を高める。 ・全ての会議において終了時刻を明確化し、会議の効率化を図る。 ・各プロジェクトの意向を踏まえ、行事の精選及び会議の縮減を進める。 ・職員研修を実施し、ワークライフバランスの意識を高める。

③ 元気な学校・・・挑戦心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体力づくり	体力向上を目指す意識の向上	・健康的な生活を意識させ、「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組める児童を95%以上にする。 ・全ての学年で、スポーツチャレンジに1種目以上取り組む。	・「西つ子よいこのくらしのカード」や「生活振り返りカード」を用い、子どもや保護者に早寝・早起き・朝ごはんの意識付けを図る。 ・清潔検査を月曜日に行い、結果を放送して意識を高める。 ・手洗い、うがい、歯磨きを放送等で呼びかけ、習慣化を図る。 ・なわとび週間中、掲示コーナーを設け、児童の意識を高め、自主的な練習を促す。 ・昼休みに、運動委員会を中心にスポーツチャレンジに取り組む場を設定する。
学校運営	○地域の学校づくり	「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	・各学年の教育内容に応じて、適切な地域人材の協力を得られる体制を整備する。 ・保護者アンケートにおいて、「開かれた学校づくりに取り組んでいる」の回答率が90%以上にする。	・地域の人材活用計画を職員に示し、どの時期にどのような学習をすればよいか確認できるようにする。 ・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で積極的に情報発信する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目